

なら 植防ニュース

第 2 回一般社団法人奈良県植物防疫協会通常総会新年度の事業計画、予算、人事が決まる

平成 26 年 6 月 11 日に、橿原市万葉ホール会議室で通常総会が開催された。下記の議題について審議し、承認された。

○第 1 号議案：平成 25 年度事業報告及び収支決算について

農薬安全啓発事業では、農薬危害防止運動の推進、農薬安全使用研修会の開催、「なら植防ニュース」の発行などを行った。

農薬試験事業では、新農薬実用化試験の実施、農薬展示圃の設置、各種シンポジウム、検討会などに出席した。

有機農産物認定事業では、JAS 法に基づいて、有機農産物の生産行程管理者 8 グループについて認定の継続、1 グループの新規認定を行った。

以上の事業報告と総収入額 32,097 千円、総支出 31,063 千円となり、監査報告後承認された。

○第 2 号議案：定款並びに会費及び入会規定の変更についてと、第 4 号議案：会費に関する件について

賛助会員の範囲を広げ、植物防疫に関係する個人及び団体が協会の趣旨に賛同して入会できるように改めた。これによって、一般社団法人日本植物防疫協会が賛助会員に入会することになった。

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒 634-0813 橿原市四条町 8 8
奈良県農業研究開発センター内
TEL0744(22)8151
FAX0744(22)8152(専用)

目 次

| | |
|---------------------------------|---|
| ◎第 2 回一般社団法人奈良県植物防疫協会通常総会 | 1 |
| ◎平成 26 年度農薬危害防止運動 | 2 |
| ◎関西病虫害研究会報告 | 3 |
| ◎登録失効になった農薬 (農薬検査所の失効農薬情報より) | 4 |

第 3 号議案：役員を選任及び役員報酬について（人事異動に伴う一部改選）

寺西副会長（奈良県農業協同組合）に替わって副会長に野崎薫（奈良県農業協同組合 営農部長）が選任された。

信岡理事に替わって、谷川元一（農業研究開発センター所長）が選任された。

黒瀬理事に替わって、国本佳範（病虫害防除所長）が選任された。

谷川幹事に替わって、土井正彦（農業研究開発センター部長）が選任された。

第 5 号議案：公益目的支出計画実施報告について

一般社団法人化に伴い、公益目的支出計画を策定し、年間 345,000 円を農薬安全啓発事業に使う。平成 25 年度は 358,952 円の支出実績であった。平成 51 年まで 26 年間継続的に実施することになる。

平成26年度農薬危害防止運動

農薬危害防止運動が6月1日から9月30日まで実施される。農薬の使用機会が増えるこの時期に、不適正な使用による危害を防止するため、県農林部農業水産振興課から運動方針と説明があった。

農薬の使用に当たっては、周辺環境に配慮した正しい使用に努める。農薬の適正使用はもとより、ポジティブリスト制度に伴う農薬飛散防止対策が重要である。特に住宅地周辺や養蜂が行われている地域等への影響防止対策が強化されている。住宅地等の周辺圃場で農薬を散布する場合は、周辺住民への周知徹底が求められている。

有効期限切れ農薬は、品質が保証されないため薬効が十分でないだけでなく、使用基準や残留農薬基準値が変更されている場

合があり、残留基準値を超える可能性もあるので使用しないようする。

販売禁止農薬に追加されたケルセン又はジコホールを含む農薬及びベンゾエピン又はエンドスルファンを含む農薬は、自主回収中であるため、受け付けている農協及び販売店に持参する。無登録農薬の疑いがある資材は、農水省HPの「農薬目安箱」に情報を提供し、使用しないよう指導する。ナフタリンを含む資材をコナジラミ防除を目的にハウス内につり下げるなど農薬取締法違反事例が発生しており、注意喚起が促されている。

新しく追加された特定農薬および土着天敵の増殖、販売範囲の制限についても説明があった。



平成26年度農薬危害防止運動ポスター
目立つところに掲示してください。

平成26年度農薬安全使用研修会

研修内容

『農薬の登録制度と安全な使用について』
(仮題)

日程：平成26年7月23日(水) 14時～16時

会場：奈良郡山総合庁舎

(201会議室)

大和郡山市満願寺町(旧県立片桐高校)

事前申し込みが必要です。

7月15日締め切りで、先着順100名までとなります。奈良県農業水産振興課に所定の受講申込書に記入して、FAXか、郵送で申し込んで下さい。

農業水産振興課 TEL0742-27-7442

FAX0742-22-9521

関西病虫害研究会第96回大会虫害分科会報告

奈良県病虫害防除所 今村 剛士

5月27日、アスト津(三重県津市)において関西病虫害研究会第96回大会が開催され、病害分科会10講演、虫害分科会18講演が行われ、虫害分科会の4課題を紹介する。

愛知県の石川研究員から「愛知県内のイチゴほ場で採取したナミハダニに対する主要殺虫剤の殺虫効果」についての報告があった。数種の薬剤に対するナミハダニの感受性を検定した結果、殺虫・殺卵効果に地域間差があった。各採集ほ場の殺ダニ剤散布履歴と供試薬剤の殺ダニ効果から、同一作用機構の薬剤が連続散布された場合や1作あたりに散布回数が多かった場合に効果が低下していると考えられた。以上から、今後これらの基幹薬剤の効力低下を阻止するために次の点に注意する。①作用機構の異なる薬剤をローテーション散布する。②基幹薬剤の散布回数を最小限に留めるため、薬剤抵抗性が発達しにくい気門封鎖型薬剤による防除や、天敵製剤であるカブリダニ類を用いた生物防除を活用する。③新しい作用機構の殺ダニ剤が発売された場合は、使用前から薬剤感受性の実態を把握し、抵抗性の発達を防止する対策を講じる。

野菜茶業研究所の豊田研究員からは「TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)検定のための黄色粘着板に捕捉されたタバココナジラミ成虫からの簡易凍結DNA抽出」について報告があった。秋季に設置した黄色粘着板に付着したタバココナジラミ成虫からのTYLCV検出率は、従来の破砕法と簡易凍結DNA抽出法に有意差は無かった。一方、夏季に設置した黄色粘着板に付着したものからのTYLCV検出率は、設置14日後では従来の破砕法に比べ、簡易凍結DNA抽出法で検出率が有意に低下した。いずれのDNA抽出法でも設置期間が長くなるほど検出率は低下する傾向にあった。

滋賀県の近藤研究員からは「滋賀県にお

けるアザミウマ類に対する主要薬剤の殺虫効果」について報告があった。供試したミナミキイロアザミウマは甲賀市および東近江市の2箇所のは場で採集した。試験は奈良県で開発されたプラスチック管瓶法で行われ、エマメクチン安息香酸塩乳剤は供試した両個体群に対して効果が高かった。ネオニコチノイド系薬剤のうち、クロチアニジン水溶剤、ジノテフラン水溶剤およびアセタミプリド水溶剤は殺虫効果に地域間差は見られなかった。しかし、ニテンピラム水溶剤、チアメトキサム水溶剤では地域間差が見られた。スピノサド水和剤は、東近江市の個体群には殺虫効果が高かったが甲賀市の個体群には著しく殺虫効果が低かった。以上から、地域によりミナミキイロアザミウマが薬剤抵抗性を獲得している可能性が示唆された。

岐阜県の杖田研究員からは「カキノヘタムシガに対する数種殺虫剤の防除効果比較」について報告があった。カキノヘタムシガは、幼虫が果実に食入・落果させるカキの重要害虫である。今回は数種の薬剤におけるカキノヘタムシガの防除効果を比較し、カルタップ、アセタミプリド(2000倍希釈時)、フルベンジアミドおよびクロラントラニプロールで高い防除効果を示した。岐阜県ではカキノヘタムシガの発生期間が長期化する傾向にある。そのため、1回の殺虫剤散布では十分な防除効果を得られない場合があるが、これらの薬剤では1回の防除でも効果が期待できると考えられた。また、フルベンジアミドはカキノヘタムシガに対して散布すれば残存する有効成分で後発するヒロヘリアオイラガを防除できる。2013年度に供試したクロラントラニプロールはフルベンジアミドと同じジアミド系の殺虫剤であることから、同様の効果を期待できる。今後、これらの結果をもとにカキの防除体系を検討する必要がある。

次回は奈良県での開催予定である。

登録農薬失効情報(2014. 3. 1~5. 30)

農林水産消費安全技術センター農薬検査部の登録農薬失効情報より抜粋

| 登録番号 | 農薬の種類 | 農薬の名称 | 申請者名 (略称) | 失効日 |
|-------|-------------------------------|----------------------|--------------|------|
| 殺虫剤 | | | | |
| 9973 | B P M C 乳剤 | ヤシマバツサ乳剤 5 0 | 協友アグリ | 5/22 |
| 16705 | ベンスルタップ粒剤 | ホクコールーバン粒剤 | 北興化学 | 4/8 |
| 17575 | マシン油エアゾル | カイガラタタキ | 日本農薬 | 5/17 |
| 19278 | ダイアジノン・ベンフラカルブ粒剤 | オンダイア粒剤 | 大塚アグリ | 4/1 |
| 20171 | シロマジン液剤 | トリガード液剤 | シジエント | 3/26 |
| 21481 | イミダクロプリド粒剤 | タフバリア粒剤 0. 5 | バイル | 4/6 |
| 22159 | フェンプロパトリン乳剤 | ムシパワー A L | 住化グリーン | 5/14 |
| 殺虫殺菌剤 | | | | |
| 16762 | エトフェンブロックス・バリダマイシン粉剤 | ホクコーバリダトレボン粉剤 D L | 北興化学 | 4/13 |
| 16771 | エトフェンブロックス・カスガマイシン・フサライド粉剤 | ホクコーカスラプトレボン粉剤 3 D L | 北興化学 | 4/13 |
| 20828 | クロチアニジン・カルプロパミド粒剤 | ウィンダントツ箱粒剤 | 協友アグリ | 4/26 |
| 20830 | クロチアニジン・ジクロシメット粒剤 | デラウスダントツ箱粒剤 | 住友化学 | 4/26 |
| 20834 | ジノテフラン・プロベナゾール粒剤 | 明治 D r. オリゼスタークル箱粒剤 | Meiji Seika | 4/26 |
| 20835 | ジノテフラン・プロベナゾール粒剤 | ホクコー D r. オリゼスタークル箱粒 | 北興化学 | 4/26 |
| 21488 | イミダクロプリド・スピノサド・トリシクラゾール粒剤 | クミアイパワーリードスピノ箱粒剤 | クマイ化学 | 4/27 |
| 21491 | イミダクロプリド・トリシクラゾール粒剤 | クミアイパワーリード箱粒剤 | クマイ化学 | 4/27 |
| 殺菌剤 | | | | |
| 14504 | プロシミドン粉剤 | 住化スミレックス F D | 住友化学 | 3/19 |
| 14577 | カスガマイシン・バリダマイシン・フサライド粉剤 | ホクコーカスラプバリダシン粉剤 D L | 北興化学 | 4/22 |
| 14596 | クロロネブ水和剤 | デュポンターサン S P 水和剤 | 丸和バイル | 4/25 |
| 21505 | アゾキシストロピン・ジフェノコナゾール水和剤 | アミスタートップフロアブル | シジエント | 5/18 |
| 21936 | アゾキシストロピン・シプロコナゾール水和剤 | アミスターコンピフロアブル | シジエント | 5/21 |
| 22131 | ジクロシメット粉剤 | デラウス箱粉剤 5 | 住友化学 | 3/5 |
| 除草剤 | | | | |
| 9515 | リニューロン水和剤 | デュポンロックス | TKI | 3/27 |
| 9816 | C A T 粒剤 | 日産シマジン粒剤 2 | 日産化学 | 4/17 |
| 19168 | グリホサートイソプロピルアミン塩液剤 | ラウンドアップ除草スプレー | 日産化学 | 3/26 |
| 19216 | シハロホップブチル・ピラソスルフロンエチル・フタミホス粒剤 | アグロスアグロスター 1 キロ粒剤 | 住友化学 | 4/25 |
| 19217 | シハロホップブチル・ピラソスルフロンエチル・フタミホス粒剤 | 日産アグロスター 1 キロ粒剤 | 日産化学 | 4/25 |
| 19235 | グルホシネート液剤 | 石原ハヤブサ | 石原産業 | 5/13 |
| 20172 | オリザリン水和剤 | サーフラン D F | エーピーエル | 4/16 |
| 20821 | ブタクロール・ペントキサゾン乳剤 | サキドリ E W | 科研製薬 | 4/26 |
| 20841 | アラクロールマイクロカプセル剤 | ハブーンフロアブル | 日産化学 | 5/17 |
| 20842 | アラクロールマイクロカプセル剤 | 理研ハブーンフロアブル | 理研グリーン | 5/17 |
| 22141 | ピラクロニル・フロモブチド・ベンスルフロンメチル水和剤 | イッポンフロアブル | デール | 3/19 |
| 22147 | アジムスルフロン・シハロホップブチル粒剤 | デュポンクサファイター 1 キロ粒剤 | デール | 4/9 |
| その他 | | | | |
| 20384 | ウニコナゾール P 複合肥料 | スマッシュ 1 4 | 住化グリーン | 2/26 |
| 20385 | ウニコナゾール P 複合肥料 | スマッシュ 2 1 | 住化グリーン | 2/26 |
| 20797 | オリフルア・トートリルア・ピーチフルア剤 | コンフェューザー R | 信越化学 | 4/12 |
| 21479 | オリフルア・トートリルア・ピーチフルア・ピリマールア剤 | コンフェューザー M M | 信越化学 | 3/23 |